

設立60周年を迎える東レ科学振興会

～民間財団の草分け的存在として、科学技術振興を支え続ける～

公益財団法人東レ科学振興会は2020年6月に設立60周年を迎える。これまで助成を行った研究は658件(総額69億円)、科学技術賞の授与は125件に上る。民間財団の草分け的存在として、日本の科学技術振興を支え続けてきた東レ科学振興会の60年間の活動を振り返り、6回にわたり紹介する。今回は設立の経緯と活動の概略について、紙野憲三専務理事に話をうかがった。

「社会に奉仕する」社是に沿い 他の民間財団に先駆けて設立

終戦から10年がたち、高度経済成長期に入っていた1950年代後半は、国全体で科学技術振興への意識が高まっていた。60年4月には、産・官・学の総意により、科学技術振興を推進するための初の民間団体、日本科学技術振興財団が設立され、4年後には人材育成の拠点となる科学技術館(東京都千代田区)が建設された。

東洋レーヨン科学振興会(現・東レ科学振興会)は60年6月、同財団と時を同じくして設立された。設立を主導したのは、当時東洋レーヨン株式会社の会長だった田代茂樹氏だ。

国家レベルで科学技術を振興しなければならないという強い思いを抱き、日本科学技術振興財団の設立や、科学技術館建設に深く関わっていた田代氏は、「社会に奉仕する」という同社の社是のもと、民間レベルでもこれを推進しようとしたのである。

設立当初から実のある支援を展開

田代氏のリーダーシップのもとに設立された東レ科学振興会は、翌年の61年3月24日に第1回の贈呈式を行い、11件の研究助成と、4件の科学技術賞の表彰を行った。以来今日まで確かな支援と顕彰により、我が国の科学技術の発展に貢献を続けてきた。

その特徴の1つは十分な助成金額であり、設立当初から一貫している。当時、科学技術振興の機運が高まっていたとはいえ、61年度の国の科学技術振興費は、国家予算のわずか1.4%であり、文部省の科学研究費補助金は、20億円に満たなかった。このとき、同振興会の第1回の研究助成は総額1億400万円、1件あたり1000万円前後の支援を行った。

その後、70年代のオイルショックを発端にした繊維不況の時代にも、この助成総額は維持され続けた。93年度からは1億3000万円に増額され、現在に至っている。



東洋レーヨン科学振興会
設立代表者/第2代会長
田代茂樹氏



東レ科学振興会第7代会長
東レ株式会社代表取締役社長
日覺昭廣氏

萌芽的基礎研究を 分野に偏らず助成・顕彰

さらに特筆すべきは、萌芽的な基礎研究に、先見の明をもって光を当てる活動をしてきたことだ。学会や協会などによる確かな推薦や、各分野の第一人者たちによる選考委員会の優れた選考をはじめ、関係者の長年の努力により高いレベルの助成と顕彰が維持されている。

東レの事業領域を超えて、幅広い分野の研究を支援する姿勢も一貫しており、選考にあたっては、東レ事業との関係を慎重に審査している。これまで助成、顕彰してきた研究分野は、総合理工・物理天文

文・情報学、化学、工学、生物・医学系がバランスよく配分されており、特定の分野に偏っていない(左下の図参照)。天文分野では2009年度の研究助成「phase-up ALMAを用いた銀河系中心超巨大ブラックホールの直接撮像」(国立天文台水沢VLBI観測所・本間希樹准教授(当時)があり、これは2019年のブラックホールの撮影成功に貢献した。

理科教育振興にも取り組む

最先端の研究だけでなく、国民全体の科学リテラシー向上にも目を向け、理科教育の支援に取り組んでいるのも特徴だ。全国の中学・高校で優れた理科教育を行う先生方を表彰し、理科教育の質の向上に貢献している。受賞作は「東レ理科教育賞受賞作品集」として毎年刊行し、全国の中学校・高等学校などへ16000冊あまりを寄贈している(累計70万冊超)。

今回は2020年8月号に、東レ科学技術賞受賞者である野依良治氏のインタビューを掲載する予定です。どうぞお楽しみに。

東レ科学振興会の主な事業

東レ科学技術研究助成 (1960年～)

自然科学分野の若手研究者への資金援助

国内の研究機関において自然科学の分野で自らのアイデアで萌芽的研究に従事する若手研究者が対象。研究の成果が科学技術の進歩、発展に大きく貢献すると考えられる研究者に、毎年総額1億3000万円(1件3000万円程度まで、10件程度)の研究助成金を贈呈する。76の学協会および推薦人に推薦を依頼する。選考委員会による一次選考(書類)、二次選考(面接)を経て、理事会で決定する。

東レ科学技術賞 (1960年～)

科学技術で優れた業績をあげた研究者の表彰
科学技術の分野で、学術上の業績が顕著

な研究者や技術の進歩に大きく貢献した研究者に対し、東レ科学技術賞(金メダルおよび副賞賞金500万円)を毎年2件前後贈呈、表彰する。東レ科学技術研究助成と同じく76学協会および推薦人に推薦を依頼し、選考委員会での選考を経て、理事会で受賞者を決定する。

東レ理科教育賞 (1969年～)

中等理科教育に携わる先生方の表彰 (後援:文部科学省)

中学校・高等学校の理科教育において、創意と工夫により著しい教育効果をあげた先生方を表彰する。東レ理科教育賞(銀メダルおよび副賞賞金70万円)、佳作・奨励作

海外研究助成 (1993年～)

東南アジア3国(インドネシア、マレーシア、タイ)の教育・研究機関において自然科学分野の基礎研究を活発に行っている若手研究者が対象。各国に設立された東レ科学振興財団に選考を依頼し、毎年各国500万円ずつ、合計1500万円の研究助成金を贈呈する。

助成・表彰を受けたノーベル賞受賞者



江崎玲於奈氏
1960年度:第1回
東レ科学技術賞



本庶 佑氏
1980年度:第21回
東レ科学技術研究助成



野依良治氏
1989年度:第30回
東レ科学技術賞



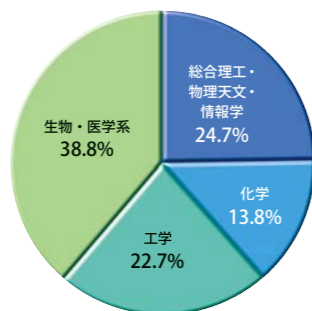
赤崎 勇氏
1999年度:第40回
東レ科学技術賞



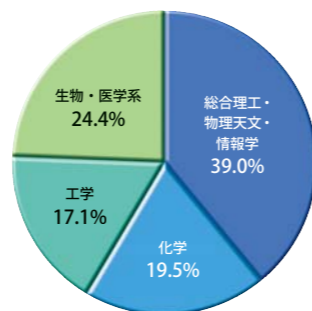
山中伸弥氏
2003年度:第44回
東レ科学技術研究助成



第1回贈呈式における東洋レーヨン科学技術研究助成金の贈呈



東レ科学技術研究助成の分野別分類(第1回～第59回)



東レ科学技術賞の分野別分類(第1回～第59回)